お隣さんは「異世界」さん

奥離

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お隣さんは「異世界」さん

【Nコード】

N4169S

【作者名】

奥離

【あらすじ】

どうやらお隣が引っ越してきたようだ。

新しい隣人は…ん？「異世界」さん？

お隣が引っ越してきたようだ。

そう気づいたのは仕事から帰宅した時、隣の部屋の玄関ポストに「新聞・広告をいれないでください」なんて書かれてた白いシールがはがされていたから。

今度はどんな人が引っ越してきたのだろう。前は新婚夫婦が一年ほどいたが3ヶ月ほど前に行き出た、どうやら離婚したみたいだった。

旦那のほうで癩癩もちのようで、時折ベランダに出ては携帯電話越しに誰かと口論している声が聞こえてきたし（外に丸聞こえってことわかってないんじゃないかな）何よりも最悪だったのが煙草の匂い。ベランダで吸ってくれちゃってるものだから、窓を開けていれば自然とうちに入り込んでくるその匂い。洗濯物に匂いがつくし、家の中で吸ってるって苛々したものだったが…あぁいや、話が逸れた。

近所付き合いなんてほぼ皆無に等しいが、単身にしろ家族にしろとにかく普通の人であればいいと思いつながら自分の家の鍵を開けた。

翌日の水曜日。

平日休みが多いこの頃、やることもなくダラダラとしていけばピンポンと鳴らされるチャイムの音。

新聞の勧誘か、はたまた宗教団体の勧誘か…出るか出まいか、面

倒くさいし居留守でも使ってしまったかと迷っていればもう一度なら
されるチャイムの音。

しょうがない、とインターホンに手をのばす。

「はい？」

『あつ、すみません。あの先日、隣に引っ越してきたものですが、
引越しのご挨拶に』

「あ、はい！今開けます」

顔が見れるタイプのドアホンではないので声だけだったが、若い
男性のようだ。

化粧はしてないけど、まあパジャマじゃなくって良かったつと
こか…新婚さんかもしれないし、期待しているわけでもないけどや
っぱり若い男の人ならと、洗面台で身なりをぱぱっと見直してから
玄関へと急ぐ。

「お待たせしてすみませんでした」

「いえ、こちらこそすみません」

鍵を開けてペこりと頭を下げれば向こうも深々と頭を下げてきた。
どうやら一人だけのようだ。・反射的に目線が左手の薬指に向
かう（こちらら先週彼氏と別れたばかりの25歳。多少がつついと
かないと本当に嫁ぎ遅れかねないぞ、というのは友人からの助言だ）
指輪はない、ほかの指にもないから独身…だと思っ。

顔をあげた男性は30手前ぐらいだろうか、そこそこ背が高い。

顔は…私ごときが甲乙つけるなんて甚だ申し訳ないが、まあ少しい
いぐらいって感じか。

人好きしそうな感じの顔っていうか、初めて会う人でも好感をもてるような雰囲気がある。

ドストライクって言うわけじゃないけど、嫌いではないこういう顔。でもああこういう人なら彼女はきつといるんだろうなあ…と何となく（始まってすらいないが）プチ失恋を味わう。まだ互いに名前も知らないっつーのにな。

「隣に引越してきました”イセカイ”と言います、よろしくお願ひします」

イセカイ…伊勢介さん…かな？珍しい苗字だと思ひながら差し出された引越し挨拶用の品物を受け取る。

「わざわざすみません、木瀬です。よろしくお願ひし」

どういった漢字なのだろうか、きちんと包装された箱の外側につけられた熨斗に目がいつて…止まった。

「……………」異世界”…さん？」

「はい」

何の冗談かと、呟いて新しい隣人をみれば人のよさそうな笑顔が私を見下ろしている。

見間違いかと再び熨斗に目を戻すが、決してそこに書かれた字は間違いではない。綺麗な筆文字でしつかりと”異世界”と書かれている。

「えっと…珍しいお名前ですね」

「ええ。実家が沖縄のほうなんです」

「へっ…へえ…」

そのときの私はうまく笑えていただろうか？どうにも頬が引き攣っているような気がしてならない。

そんな名前があるかい！と突っ込まなかった私を誰かほめてほしい。まあでも本当にあるかもしれない…こんなこといっては何だが、過去にも意外に沖縄の名前で「そんなんあるの!？」ってびっくりするぐらいの名前だってあったわけだし…あとでググるか。あ、そういえば高校の同級生で沖縄出身の子がいたような、久しぶりに連絡でも取って聞いてみるのもいいかもしれない。

「兄弟で引越してきたんです。弟と妹なんですけど、二人ともそこそこ大きいので五月蠅くはしないと思いますのでよろしくお願ひします」

「あ、はい。何かわからないことでもあったら聞いてくださいね」

「ありがとうございます。では失礼します」

はい、と何とか最後まで愛想笑いを保っていられたと思うが…うーん、どうだろう。

とりあえず見た目普通だが変わった苗字のお隣さんができたよ、と長期旅行中の母親と来月転勤から帰ってくる弟にはメールでもいれておいたほうがいいのだろうか。

それから数日と立たないある夜中。

職場の飲み会から帰ってきた私がうつかり酔った勢いで、これまた偶然にも鍵を掛け忘れてしまっていたらしい（何て無用心！）異世界さん家の玄関を開けて不法侵入（言っておくがわざとでない！）しちゃったところ、明らかにこのマンションの構造を無視したつくりの場所に踏み入ってしまったりだとか、実は異世界さんが”異世界”を繋ぐ扉の管理者（神様？）だったりだとか、弟さんと妹さんがその異世界を周る旅人だったりだとか（混乱）…ってというのはまた別の話で。

とにもかくにも…厄介な隣人が引っ越してきたものです。

(後書き)

続…かない(笑)

いや、気が向いたら続き書きます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4169s/>

お隣さんは「異世界」さん

2011年4月18日00時55分発行